

# 亀山市男女共同参画ってどうなっているの??

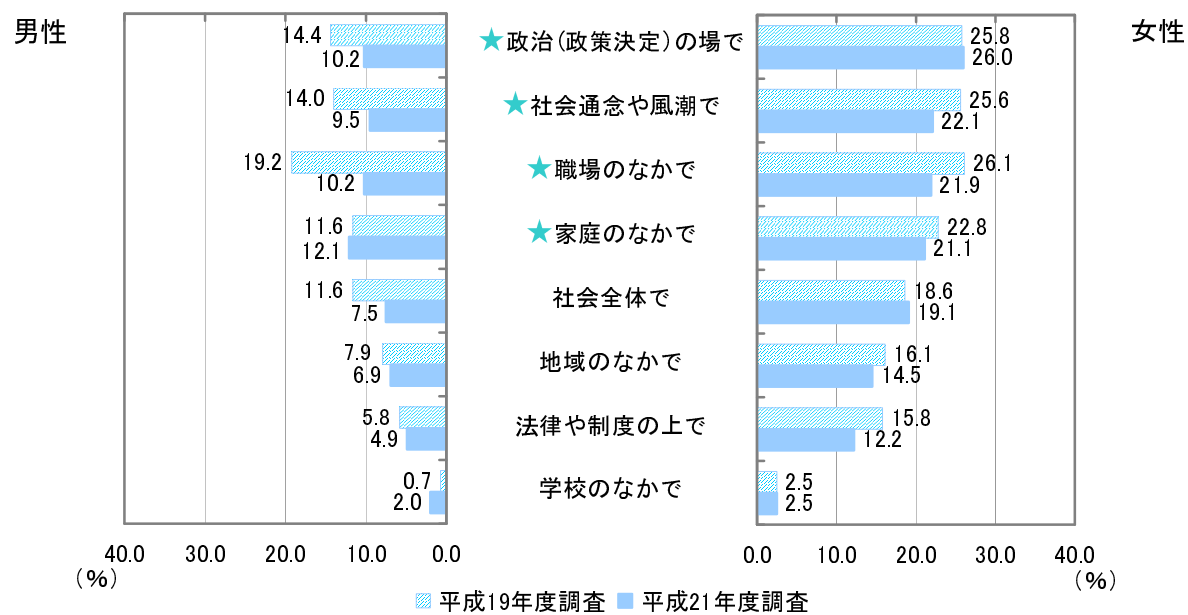
男女共同参画社会とは「男女が性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮する機会が確保されることにより、自らの意思によって社会の様々な分野における活動に参画し、共に責任を担う社会」をいいます。

## ◆ 男女の地位は平等になってきている??

◇ 家庭や職場、学校、地域などそれぞれの分野における男女の地位は平等になってきたのでしょうか?

平成 21 年度調査では、女性は男性よりすべての分野で「男性の方が優遇されている」と感じています。平成 19 年度調査結果と比較すると、「男性の方が優遇されている」と感じている割合が減少していますが、「政治（政策決定）の場で」、「社会通念や風潮で」、「職場のなかで」、「家庭のなかで」では依然、女性の不平等感が高くなっています。

図 それぞれの分野で「男性の方が優遇されている」と考える人の割合



## ◆ 家庭では家事の役割分担をしている??

◇ 家庭生活における男女の役割分担はどのようになっているのでしょうか?

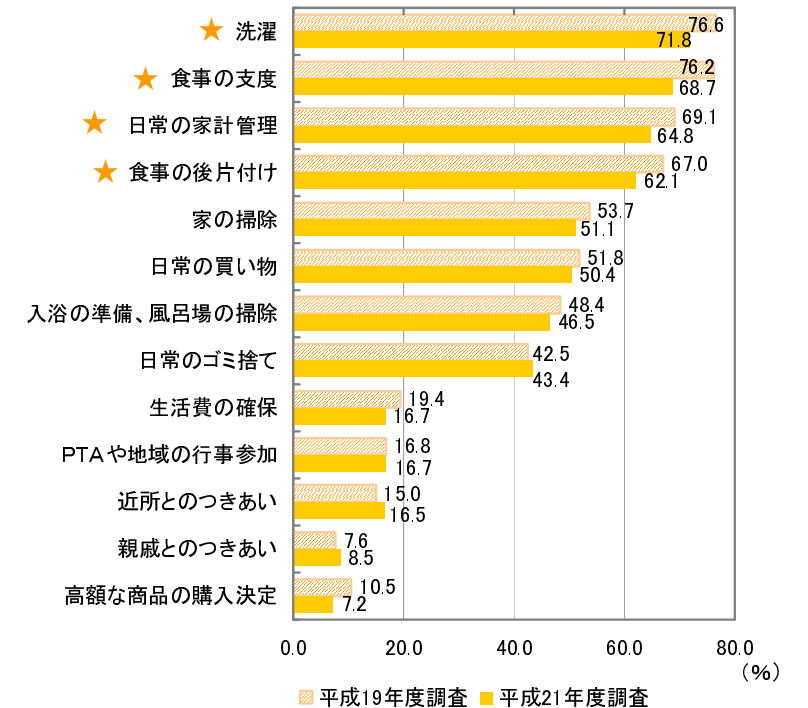
平成 21 年度調査では、「洗濯」、「食事の支度」、「日常家計管理」、「食事の後片付け」において女性が担っている割合が高くなっています。

平成 19 年度調査結果と比較すると、概ねすべての項目が減少していますが、依然、日常的な家事を多くの女性が行っている現状があります。

性別による固定的な役割分担ではなく、家族が話し合い、お互いを尊重しながら、協力し合う必要があります。



図 家庭生活の中での男女の役割分担について、「ほとんど女性がしている」割合



## ◆ 男女共同参画に対する市民意識

◇ 男女共同参画は市民の身近に浸透してきているのでしょうか?

平成 21 年度調査では、「男女共同参画社会」という言葉の認知度は 49.4%であり、平成 19 年度調査結果と比較すると、ほぼ同数値となっています。

また、平成 21 年度調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人の割合が 46.1%となっています。このような固定的性別役割分担につながる意識はわずかに改善されているものの、平成 23 年度の目標値とは開きがあり、さらなる普及・啓発が必要です。

図 「男女共同参画社会」という言葉を知っている人の割合

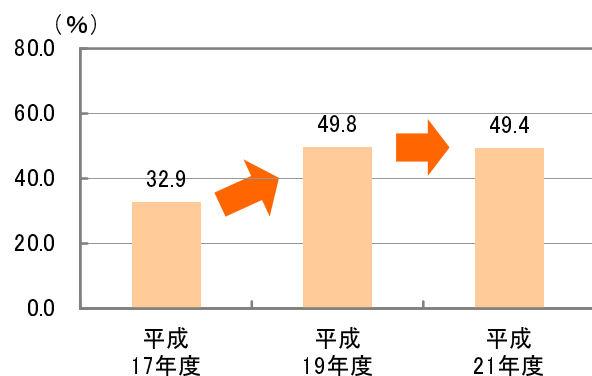
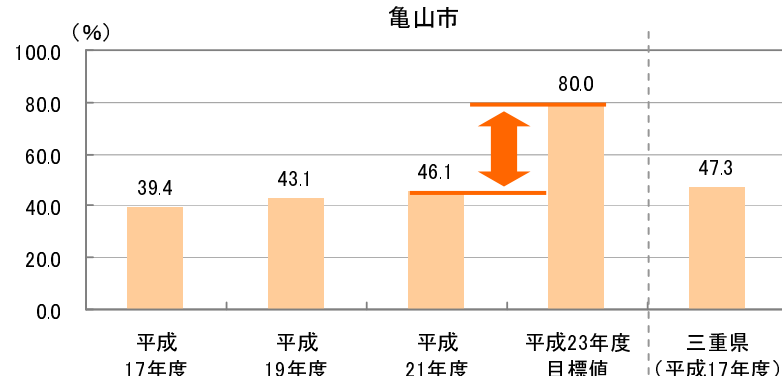


図 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人の割合



## ◆ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の希望と現実

◇ 生活の中で、仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度は希望に近いでしょうか?

平成 21 年度調査（新規設問）結果では、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望と現実とは以下です。

### 【希望】

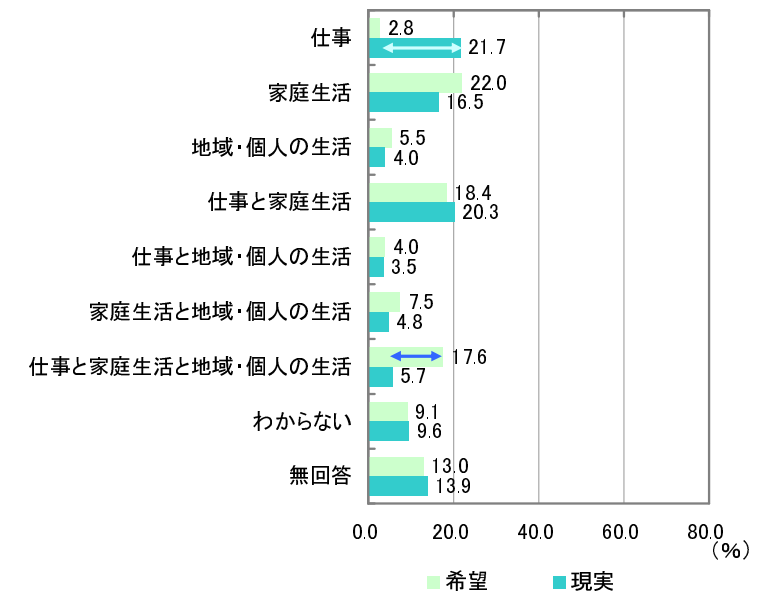
- 1 位 家庭生活
- 2 位 仕事と家庭生活
- 3 位 仕事と家庭生活と地域・個人の生活

### 【現実】

- 1 位 仕事
- 2 位 仕事と家庭生活
- 3 位 家庭生活

女性の社会参加が進むにつれ、家庭や地域での役割は、ますます男女がともに協力し合わなければなりません。一人ひとりが仕事と生活の調和を図りながら自らが望んだ生き方ができる社会が必要です。

図 生活の中での、仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度 (平成 21 年度 新規設問)



# ◆ ドメスティック・バイオレンス(DV)やセクハラって身近にあるの？

## ◇ ドメスティック・バイオレンスの被害を受けている人はどれくらいいるのでしょうか？

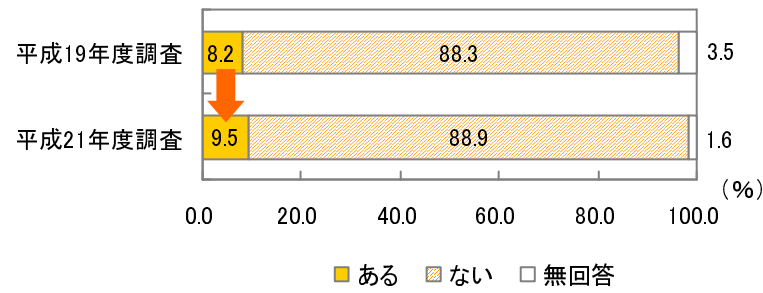
平成 21 年度調査結果では、これまで結婚相手や恋人から暴力を受けた経験のある人は 9.5%となっており、平成 19 年度調査結果と比較すると、増加しています。

また、被害の種類としては「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」ことが最も多くなっています。

このような暴力は、性別・年齢にかかわらず重大な人権侵害であるという認識を高め、暴力を許さない社会づくりが必要です。

※ドメスティック・バイオレンス(DV) 配偶者、配偶者であった者、恋人及び同棲関係にある者に対する身体的、性的、精神的、経済的又は社会的暴力をいいます。

図 結婚相手や恋人から暴力を受けたことがある人の割合



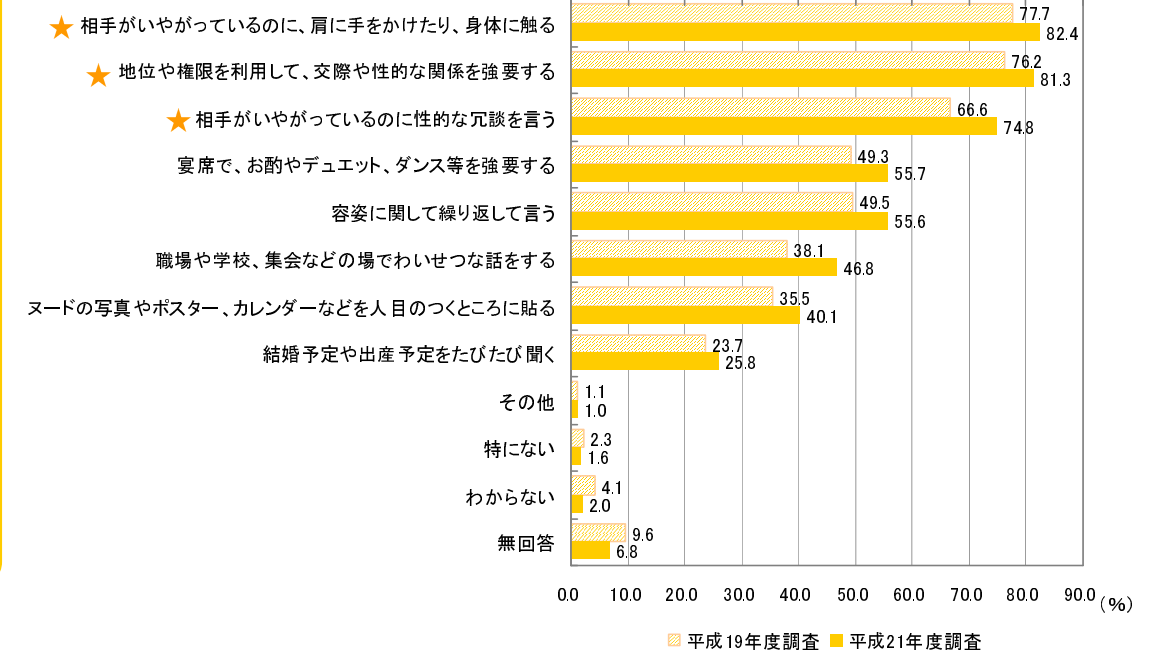
## ◇ どのようなことがセクシュアル・ハラスメントにあたると思われるのでしょうか？

平成 21 年度調査結果では、上位3項目(★)について7割以上の人がセクシュアル・ハラスメントだと感じています。

平成 19 年度調査結果と比較すると、いずれの項目も割合が増加しており、セクハラであるとの認識が高まっていることがわかります。今後も引き続きセクハラに関する正しい知識の普及・啓発が必要です。

※セクシュアル・ハラスメント(セクハラ) 性的な言動により他の者に不快感もしくは精神的苦痛を与えること又は相手方の生活環境を害することをいいます。

図 あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うこと



# ◆ 子育てについてどう考えている？

## ◇ 男の子、女の子、それぞれ育て方に違いはあるのでしょうか？

平成 21 年度調査では、多くの人が、男の子は「経済的自立」、女の子は「家事」ができるように育てることを望んでいます。男性に比べ、女性では男の子は「家事」ができるように、女の子は「経済的自立」ができるように育てる要望が高くなっています。また、平成 19 年度調査結果と比較すると、女の子の「経済的自立」を望む割合が高くなっています。子どもが性別に関わらず、それぞれの個性と能力が発揮できる環境づくりが必要です。



図 結婚相手や恋人から暴力を受けたことがある人のうち、その暴力の内容と頻度(平成 21 年調査)

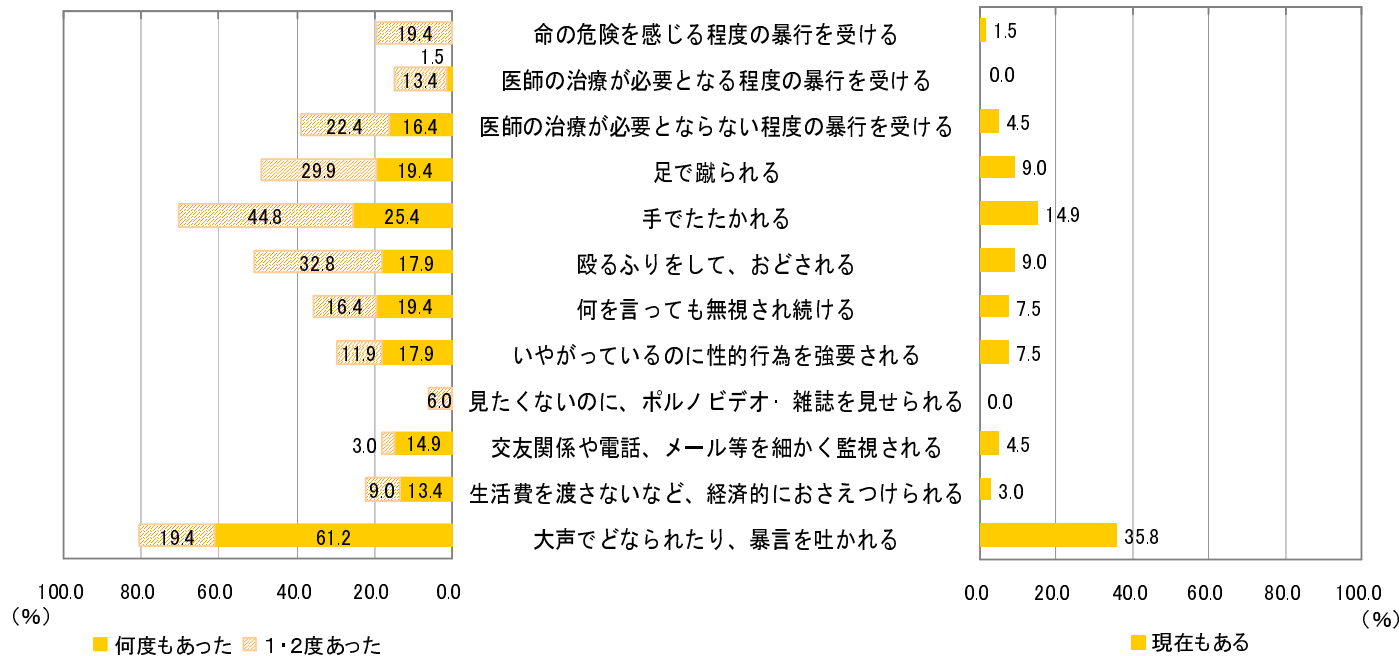


図 子育てについて、それぞれの意見に「そう思う」と考える人の割合

